



表1 サイトの構成とその内容

玄 関	『ティップス先生』への入口であり、サイトのねらい、構成、目次、使い方などが記されている。
授 業 日 誌	若手の教員であるティップス先生が、試行錯誤しながら一学期間の授業をどうにかやり遂げるまでを日誌風に書かれたページである。独立した読み物としても読めるが、「授業の基本」の目次の役割も果たしている。
授 業 の 基 本	授業の場面ごとのティップス（コツやポイント）が体系的にまとめられたサイトの中心的なページである。コラム、チェックリスト、例などの付録も含まれている。
困ったときに	サイトをより効率的に使うために作られたページであり、INDEXとFAQ（よくある質問）から構成されている。
情報への窓口	参考となる図書や資料の紹介、有益な情報が得られるサイト等へのリンク、名古屋大学の教育活動において役立つ情報をまとめたページから構成されている。
みんなの広場	授業の悩みや工夫、大学の組織や制度のあり方などについて自由に語り合うことができるように電子掲示板が設置されている。

に成長していくのである。

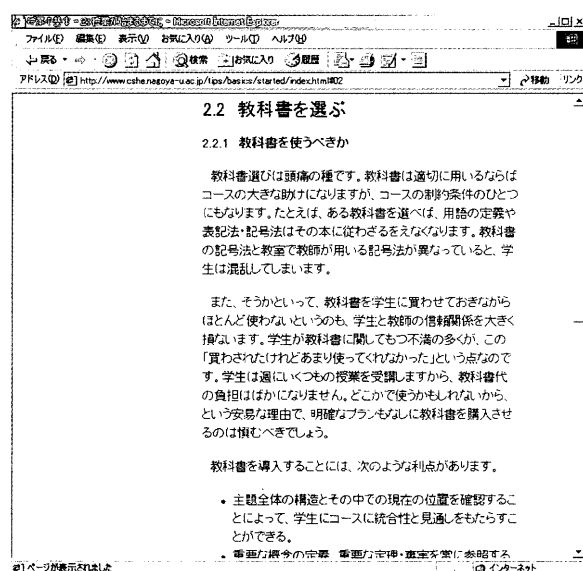
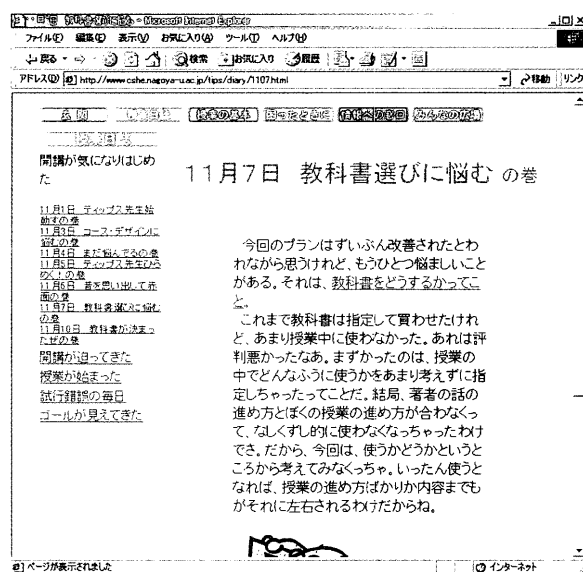
第二に、「名古屋大学版」というコンセプトである。名古屋大学の教員の教育改善を第一の目的にするという考え方である。開発の過程で、学内の委員会による報告書など大学が蓄積してきた資料を参考にした。対象を名古屋大学の教員に特定することで、きめ細かな情報提供が可能になったのである。

第三に、「気軽に読める」というコンセプトである。『ティップス先生』では、架空の教員の授業日誌(図2)を綴ったパートを加えるなど、楽しく気軽に読めるということを重視した。また、必要な場合を除いて教育学の専門用語の使用を控えた。更に、教員がすべての内容を読むのではなく、必要な所をすぐ読めるような使い方もサポートしている。

#### 4. サイトへの反響

図3はセンターのホームページに対する月別のアクセス状況（ページビュー）を示したものである<sup>(3)</sup>。その半数以上が『ティップス先生』へのアクセスである。FD（Faculty Development）活動における紹介や新聞、雑誌、テレビを通じた紹介などによって、月ごとのアクセス数にばらつきはあるが、公開後のアクセスは多いといえよう。アクセスしたコンピュータのホスト名を分析すると、名古屋大学内のコンピュータからのアクセスは全体の約18%である。アクセスの絶対数を考慮すれば、学内教員からのアクセスが少なかったというよりも、むしろ学内からのアクセス以上に学外からのアクセスが多かったと解釈できるであろう。

『ティップス先生』は、様々なオンライン上のサイト



(b) 「授業の基本」

図2 「授業日誌」のページとリンク先の「授業の基本」のページ

で紹介され、リンクもはられている<sup>(4)</sup>。その結果、名古屋大学外からのアクセスが大幅に増加したと考えられる。『ティップス先生』へリンクを張っているサイトは、現在確認できるものでも80以上のサイトがある。リンク元のサイトは、大学のサイト、大学以外の教育機関のサイト、個人のサイトなど様々である。それらのサイトにおけるコメントの多くが『ティップス先生』の内容に対して肯定的なものである。また中学校や高校の授業や塾などの講義においても応用が可能であるとの指摘もある。一方、学生の学習の視点を取り入れてほしい、具体的な例を充実してほしい、大学で組織的に活用できるのかといった、今後の期待や課題を指摘したものもある。

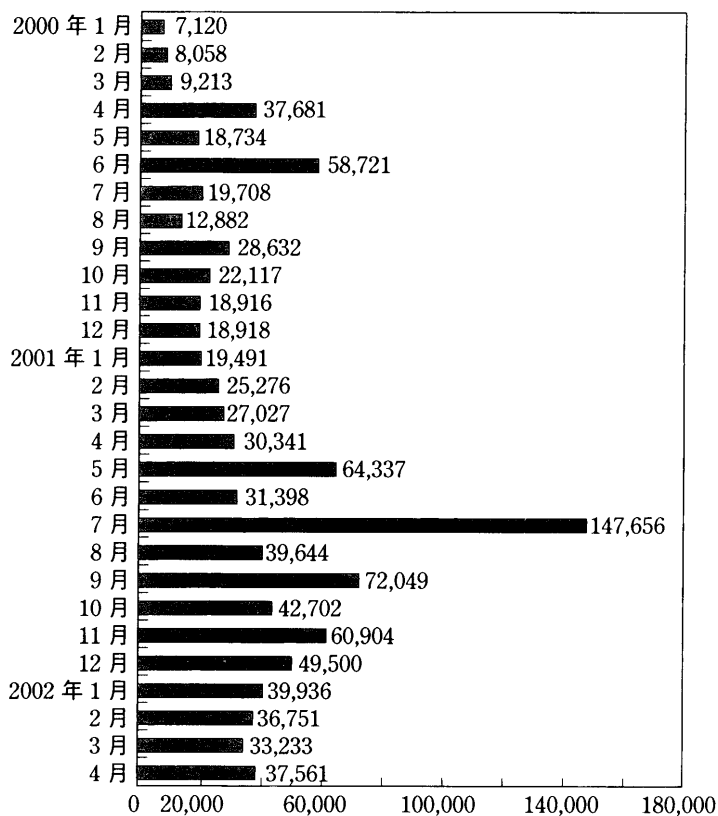


図3 センターのホームページへのアクセス数（2000年3月「ティップス先生」公開）

## 5. 公開後のサイトの成長

サイトの公開以降、「成長する」というコンセプトに沿って、細かな内容の追加や修正を続けてきた。学内教員から授業のノウハウの投稿も受け取りサイトに追加した。しかし、センターが『ティップス先生』を用いてFD活動に本格的にかかわることになるにつれ、広範囲にわたって内容を改訂する必要性が高まった。2001年度にセンターにおいて改訂プロジェクトが立ち上げられ、2001年12月に『ティップス先生 Ver1.1』を公開することができた<sup>(5)</sup>。主な改訂点は、不十分であった箇所の修正、「授業の基本」第10章の追加、新規コラムの追加、「情報への窓口」の充実化、「みんなの広場」の学外への公開、全体のデザインの変更である。『Ver1.1』から学外に公開した「みんなの広場」は、以前より投稿数が増加した。まだ改善点は尽きないが、教育改善に関心をもつ者が参加するコミュニティが電子掲示板を通して形成されつつあるといえよう。今回の改訂によって、国内外の同様な目的をもったサイトと比較しても遜色ないサイトに仕上がったといえる<sup>(6)</sup>。

また、『ティップス先生』において重視したコースデザインをオンライン上で実践できる『ゴーイングシラバス』を2001年3月に開発した<sup>(7)</sup>（図4）。『ゴーイングシラバス』はプラットフォームとコースウェアからなるオンラインシステムである。『ゴーイングシラバス』によって、シラバスを基点としたコースデザインのコンセプトを体験することができる。2001年度には学内外の25の授業において『ゴーイングシラバス』が用いられた。

## 6. おわりに

様々な方面からのサイトへの反響によって、『ティップス先生』の影響の大きさと広さが確認できる。これらの反響は、制作段階での予想を大幅に越えるものである。大部分の大学教員にインターネットが普及した現状にうまく適合した発信方法であったといえよう。

『ティップス先生』への反響から、いくつかの点が示唆される。まず、多くの大学教員が授業改善を支援するサイトに関心を持っているということである。近年では、FD活動として組織レベルでの大学教員の研修が各大学において実施されつつあるが、大学教員の個々のレベルでも、各自の教育活動を改善しようとする意欲が高いということを示しているといえよう。また、そういった教育改善へのニーズの内容も、大学教員の間で多くの部分が共通している可能性が高いと考えられる。『ティップス先生』は、名古屋大学の教員を念頭において制作されたものであるが、学外の大学教員からも多くのアクセスがあり、反応

【日付】	【授業計画】	【授業記録】
2001/04/17	オリエンテーション	初めに配属したシラバス レポートの提出基準
2001/04/24	後編授業の方法の いい文庫の探し方	今日のレジス 参考資料: 西澤剛 雑誌研究 実用自注12-13頁
2001/05/08	後編授業の方法の インターネットによる情 報収集 フィールドワークによる情 報収集	今日のレジス みなさんからのメールでの主な質問 グループ分け 覚えておくべきパソコンテクニック シラバス閲覧の注意
2001/05/15	学生時代インタビュー の調査計画発表: 各グル ープ10分 課題: 得意げのようにつ まみれするかのレジス (A4, 1枚)を作る	今日のレジス 参考資料: 立花隆二 二十歳のころの裏表紙 今日のゲストスピーカーは、中学校で数学教師をしている首藤貴子さんです
2001/05/22	学生時代インタビュー の成果発表	今日のレジス 1. 前回のインタビュー結果 2. 前回のインタビュー結果 3. 前回のインタビュー結果 4. 前回のインタビュー結果 5. 前回のインタビュー結果 6. 前回のインタビュー結果 7. 前回のインタビュー結果
2001/05/29	学生時代インタビュー の成果発表	今日のレジス 大津寛樹 情報学研究所の梅井さんとTAの行基さんから発表祝、でもう ました。2人ともいい発表だったと思います。みなさんが発表する時の参考 になったと思います。

図4 ゴーイングシラバスの画面

も良いようである。名古屋大学の教員が直面する問題を解決するためのヒントやノウハウの多くが、一般的な大学教員に対しても有効であったことを示している。

最後に、ティーチングティップスを有効に利用されるための教育環境の条件について指摘したい。大学全体の教育改善のためには、教員の個々の努力に加えて、それを支援する制度や組織的な取り組みが必要である。その一つは、大学全体の教育目標の明確化である。学生にとって学習内容の重複や不足のない統合的な目標をもったカリキュラム構成が必要である。また、教材開発に関する支援、メディア機器の充実、ティーチング・アシスタントや専門家などの授業協力者の制度、定期的な研修制度などの教育環境の充実を図る必要がある。大学がこのような教育環境を準備できれば、ティーチングティップスによる個々の教員の授業改善が大学全体の教育改善につながるであろう。

## 文 献

- (1) 池田輝政, 戸田山和久, 近田政博, 中井俊樹, 成長するティップス先生—授業デザインのための秘訣集, 玉川大学出版部, 2001. <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/>
- (2) <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips/resources/link.html>
- (3) センターのホームページへのアクセス状況, <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/log/>
- (4) 中井俊樹, 首藤貴子, “インターネット上での反響,” 「成長するティップス先生」の記録 2001.04-2002.03, 名古屋大学高等教育研究センター, pp.11-18, 2002.
- (5) 改訂前の Ver1.0 もホームページ上で公開している, <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/tips010/>
- (6) 高木裕宜, “他大学のティップスとの比較,” 「成長するティップス先生」の記録 2001.04-2002.03, 名古屋大学高等教育研究センター, pp.19-24, 2002.
- (7) <http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/gs/>



なかい としき  
中井 俊樹

平4東大・教育卒。平10名大大学院国際開発博士課程中退。同年名大高等教育研究センター助手。以来、大学教授法、高等教育マネジメントなどの研究に従事。現在、名古屋大学高等教育研究センター助教授及び同大学評価情報分析室室員。修士（学術）。

## 学 会 ニ ュ ー ス

### 石井六哉博士 米国電気電子学会（IEEE）の産業応用部門（IES）から Dr.-Ing. Eugene Mittelman Achievement Award を受賞

横浜国立大学の石井六哉博士に、米国電気電子学会（IEEE）の Industrial Electronics Society より同ソサイエティ最高の業績賞である Dr.-Ing. Eugene Mittelman Achievement Award が贈与された。授賞式は、本ソサイエティの年次国際会議である IECON が、本年は11月5日から8日までスペインのセビリアで開催され、これのバンケットの席上で行われた。ちなみに同会議は同博士が General Co-Chair を務めた。長年のデジタル信号処理並びにこれの応用に関しての顕著な研究業績による受賞である。副賞として賞金が授与された。

